

## 1. 幼稚園の教育目標

子どもたちは、無限の未知なる可能性を秘めており、その可能性は幼児期の過ごし方で大きく左右される。本園は「生きる力」の基礎を育むことを大目標としている。生きる力の根源はやる気である。四季折々の子どもたちの体験活動を重視し、感動体験から湧き出るやる気(意欲)を発露させる保育を進める。

## 2. 令和二年度の重点

- ・ いきいきと活動し心豊かな子どもを育てる。
- ☆ 考える子ども…………… 工夫し創り出して遊ぶ
- ☆ 元気な子ども…………… 身体を存分に使って遊ぶ
- ☆ 感じる子ども…………… 自然に親しんで遊ぶ
- ☆ 仲よくする子ども…………… 思いやりをもってきまりを守って遊ぶ

## 3 評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	結 果	理 由
(1) 園の教育理念 教育方針	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本園の目指す方向を再確認しながら、教育・保育に努めた。</li> <li>・ 社会や地域の要請、園・子どもの実態に応じ教育理念・教育方針を設定し全教職員で共通理解する機会を持つことに努めた。</li> <li>・ 全教職員で全園児を育てることに力を注いだ。</li> </ul>
(2) 教育課程・指導	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナの感染拡大の状況に応じ、柔軟に指導計画を組み直し、行事の時間短縮や制限もあったが、その中でも達成感や満足感が得られるような保育ができた。</li> <li>・ 子どもの実態に応じた保育が展開できるように、教育課程の再編成に努めた。また、それぞれの活動後の評価を重視し、次の活動に生かせるように取り組むことができた。</li> <li>・ 活動中や活動後の振り返りを大切にすることに努め、子ども達に小さな変化や伸びに気付かせ、自己肯定感の醸成を図った。</li> <li>・ コロナ禍であっても体験を通して学ぶことを重視し、四季折々の行事を展開した。</li> <li>・ 緊急事態宣言発令中の長期休暇中に、子ども達が自宅でも楽しめるようなものを考え、手作りおもちゃを郵送したが、オンラインでの交流や遊びの提供など、多方面に方法を考慮する必要がある。</li> <li>・ 絵画指導・英語指導・体育指導・音楽指導では、各講師と連携した保育が展開できた。</li> </ul>
(3) 保健管理	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園医による定期的な検診と月々の発育測定の実施及び日常の健康観察や疾病予防のための取り組み等、園児の健康管理に十分配慮することに努めた。</li> <li>・ 子どもたちの健康の維持増進のために、運動遊びやマラソン・縄跳びなど計画的に取り組み、運動への意識を高めることができた。</li> <li>・ コロナウイルス感染防止の為、マスク着用の徹底・アクリル板の導入、また保育室やおもちゃの消毒を毎日行い、感染予防に力を注いだ。</li> <li>・ 健康の大切さ、コロナ対策について全体・個別指導を行い、年間を通して手洗い・うがい・アルコール消毒の徹底を図った。</li> <li>・ バスの運行に際し、乗車後の消毒・換気・間隔を開けるよう園児の座り方の指導を徹底した。</li> <li>・ 伝染性の疾患を極力減少できるように、園医・保護者と連携を取り、事前の防衛対策に力を注いだ。</li> </ul>

(4) 安全管理	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練や防犯訓練を通して、子どもの安全に対する意識の高揚を図った。また、教職員一人一人が子どもを守る意識と行動を高めることに努めた。</li> <li>・ 施設・設備の定期的な安全点検と保育室等の日常の安全点検の徹底に努めた。</li> <li>・ 門扉の二重ロック・高さ・開閉時のベルなどを改修し防犯・安全管理を徹底した。</li> <li>・ 防犯カメラ・インターホン対応・入園証の着用化等、外部侵入者対策を保護者と共に実施した。</li> <li>・ 預かりお迎え時刻等の状況を確実に記録する為、登降園管理システムを導入した。</li> </ul>
(5) 特別支援教育	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部研修に参加し、日々の指導に活かすことができた。</li> <li>・ 個別の支援計画・指導計画の作成に力を注ぎ、個に応じた指導ができるよう努めた。</li> <li>・ 小学校への滑らかな進級となるよう、箕面市教育委員会・家庭との連携を図りながら要配慮児童に対応することができた。</li> <li>・ 配慮を要する個々の子どもを理解が進むよう、箕面市教委発達相談や保護者との連携を密にし、的確な援助・支援となるよう努めた。</li> <li>・ 教職員間で必要な情報共有を行い連携・協力を図ることに努めた。</li> </ul>
(6) 組織運営	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全教職員で全園児を育てるという教育方針に基づき、ひとりひとりの子どもの実態を共通理解し、指導・支援・対応ができるよう努めた。</li> <li>・ 園務分掌や学級運営において、経験の浅い教員が力を発揮できるよう援助し、教職員の資質向上を図ることができた。</li> <li>・ 担当するそれぞれの園務分掌や職務において、コロナ対策に配慮しながら、工夫や改善が図られ円滑な幼稚園運営を行った。</li> <li>・ よりよい人材育成の視点から、適切な指導・人材配置を行い、チームとしての力を生かし組織全体の総合力を高めることができた。</li> </ul>
(7) 研修	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な外部研修やオンラインでの研修にも積極的な参加を促し、園内での伝達講習に繋げた。</li> <li>・ 子ども理解・指導技術・指導法などの研修を定期的実施し、子どもへの声かけを含めた対応の仕方や保護者対応について相互に理解を深めることができた。</li> <li>・ 教材や絵画の外部講師による実施研修を実施し、指導法や表現技術を学び、指導に活かすことができた。</li> </ul>
(8) 情報提供	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月の園だよりと毎週のミニだよりの発行で、園の様子や取り組みについて保護者に伝え、大事にしていきたいことや園の方針を理解していただくよう努めた。</li> <li>・ 未就園児のイベントがコロナ禍の影響により十分に行えなかったが、随時見学を受け入れることにより、園の紹介に努めた。</li> <li>・ 携帯アプリを導入し、保護者との連絡が相互に行えるようになった。</li> <li>・ 幼稚園についてより理解を深められるようHPの改良が必要。</li> </ul>
(9) PTAとの連携	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PTA 主催の夕涼み会では、例年と異なった方法で三密対策を考えながら行えるよう保育者と相談・協力して進めた。また、運動会では PTA が中心となってソーシャルディスタンスがとれるよ</li> </ul>

		う観覧席やビデオ席を工夫し、混雑を防ぐ対策を図った。
(10) 子育て支援	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍の為に未就園児を対象とした「あそびにおいて」を十分に行えなかった。オンラインによる遊びの提供や園庭開放など、方法を考慮する必要がある。</li> <li>・ 満2歳児を対象とした、週2回の特別保育「ぴよんぴよんらんど」を年間計画のもとに実施。2コースともに常に定員いっぱい状態で実施することができた。</li> </ul>
(11) 預かり保育	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者の要望を可能な限り受け入れ、毎日7時30分～18時30分まで実施した。</li> <li>・ コロナ禍でも預かり保育を希望する家庭が多い中、密を避けるため保育室を分けるなど工夫をし、感染予防に努めた。</li> <li>・ 園児管理アプリの導入を行い、チケット制を廃止しより正確な時刻による料金管理が見込まれるが、打刻忘れなどへの対応をする必要がある。</li> <li>・ 申し込み方法が1週間ごとであったのが、1ヶ月前～前日までとなり、自由に変更することができるようになった。</li> <li>・ 預かり保育の中身にを吟味し、特に異年齢児の交流の場としての位置づけを意識し取り組んだ。</li> </ul>
(12) 教育環境整備	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの安全と飛び出し防止の為、門を取り替えて高くし、ノブやカギを子どもが届かないようにした。また、開閉時に音が鳴るようにして保護者へも注意喚起を行った。</li> <li>・ 園児の出欠状況を全職員で共有し、保護者へも登降園の時間を意識し、連絡を確実にしていただけるよう登降園管理システムを導入した。</li> <li>・ 園庭のスケーター・ボールを新しく入れ替えたり遊具の整備を行ったりして、よりよい環境を提供することができた。</li> <li>・ 花壇・玄関前の植物栽培に力を注ぎ、四季折々の草花が鑑賞できるように努めた。</li> <li>・ 子どもたちは、菜園で育てたジャガイモやさつまいもの収穫を楽しむことができた。また、トマトやキュウリなどの野菜の育ち方を身近に観察することができた。</li> </ul>

☆自己評価 (5:十分に達成 4:達成 3:おおむね達成 2:要努力 1:要一層努力)

#### 4. 総合的な評価結果

- ・ 本年度は、新型コロナウイルス感染症による休園が続き、計画していた活動内容を変更し、柔軟に対応することを余儀なくされたが、すべての活動の中で、子ども自らが活動を工夫しながら創っていく姿を求め、「考える子」を育むことに重点を据えて取り組んだ結果、活動的な子どもが育ってきている。
- ・ 全教職員で全園児を育てるという共通意識のもと、子どもに対応することに努めたので、子ども一人ひとりの思いを引き出すことができた。自分の思いをみんなの前で出せる子どもが増えてきている。
- ・ 本園 85 年の伝統の中、四季折々の行事や、子どもの体験活動を重視しながら、新しい方向性を見据えた保育の展開に取り組むことができた。
- ・ 年間を通じてコロナ感染予防に努め、保護者が安心して子どもを預けることのできる環境づくりに取り組むことができた。
- ・ 防犯マニュアルの再検討とともに、門扉の二重ロックや高さを改善し子どもの安全管理に努めた。
- ・ 園児管理システムを導入し、保育の活性化、充実化を図ったことで園と家庭との連絡を円滑にすることができた。

## 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 方 法
教育課程・指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内の研修を深め、一人ひとりの子どもがより主体的に動ける指導法と環境整備の充実が必要である。子どもが自分の思いが出せるよう導き、自己肯定感の育成に努める。</li> <li>教育課程及び指導計画を見直し、園児の実態に応じた保育を展開していくことに努め、また、異年齢児との交流活動をより活性化していく必要がある。</li> <li>幼少連携及び地域連携を深める保育のあり方について探りながら実践していく。</li> <li>複数教員での指導、多方面から眺めた保育を深め、保育の充実に努める。</li> </ul>
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症に対する三密対策を継続しながら行事の進め方を検討し、充実させる必要がある。</li> <li>あらゆる自然災害を想定した防災計画を確立するとともに、避難訓練を計画的に実施していく。災害に備えての水や食料、アルコールやマスクの備蓄を検討する。</li> </ul>
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後園内研修の機会を確保し、課題への取り組みや教諭のスキルアップへと繋げたい。</li> </ul>
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPを使ってより園の紹介を十分に伝えられるよう改良に努める。</li> </ul>
預かり保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>預かり保育の中身を吟味し、異年齢児の交流の場として充実を図る。</li> </ul>
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園に関する様々な情報の提供・幼稚園公開の実施・園だよりやPTA情報などについてさらに充実していく。HPの積極的な活用を図っていく。</li> </ul>

## 6. 学校関係者評価委員会の評価

全 体 の ま と め
<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員で全園児を育てていくという理念が浸透し、子ども一人ひとりへの丁寧な対応に努めていることがわかります。常に子どもを中心に据えた保育の展開を心掛けていることが認められます。今後も保育者や地域からの信頼がさらに厚くなるよう取り組むことが望まれます。</li> <li>新型コロナウイルス感染予防の為、行事が中止になったり縮小になったりしましたが、その都度教職員で話し合いを重ね、伝統を大切にしながら取り組めたことが伺えます。また、子ども達のケアにも配慮し、一人ひとりがのびのびと安心して過ごせる環境を整えられた事は良かったです。</li> <li>園児管理のアプリを導入し、作業の効率化を図ると共に、保護者との相互の連絡をアプリで行える様になりましたが、このアプリがさらに浸透していく事が望まれます。</li> </ul>